

深志卓球部だより

2009, 5, 20

高校総体中信大会を終えて

学校対抗 準優勝 中信2位を死守

男子シングルス ベスト16 (白鳥北斗・松島祥晃・田原祐希)

男子ダブルス ベスト8 (竹内将哉・白鳥北斗組、松島祥晃・田原祐希組)

学校対抗1回戦 (対木曽青峰)		
深 志	3-0	木曽青峰
松 島	11-9	吉 田
	11-9	
	5-11	
	10-12	
	11-5	
白 鳥	11-8	下 條
	11-8	
	11-5	
田 原 松 島	12-10	吉 田 下 原
	11-6	
	5-11	
	11-8	

学校対抗2回戦 (対大町)		
深 志	3-1	大 町
田 原	9-11	村 田
	9-11	
	11-9	
	5-11	
竹 内	11-4	徳 竹
	11-9	
	11-5	
竹 内	11-8	村 田
	11-5	
	9-11	
白 鳥	12-14	岡 沢
	11-6	
	11-8	
松 島	11-7	関
	12-10	
	11-8	

学校対抗から始まった中信総体の初日、前回の第2シードを生かして初戦が空き、相手

を研究してから1回戦が始まった。しかしいつも初戦の立ち上がりが悪く、意外なところでつまづいているが、今回もまた同じ様相を呈した。

木曽青峰の主将吉田に対して、松島の動きが固く2セットを連取される展開となったが、最後は相手の動きを封じることができた。ダブルスでも出だしが鈍く、自分たちのペースになるまでに一進一退の状態が続いた。

2回戦は、県ヶ丘との激戦を制した大町との対戦となった。1番が注目の対戦となりこれまで落としたことのない相手だが、1番を落とす結果となる。このあたりからようやく本来の調子が出て、その後はほぼ完璧な展開で勝利を収めることができた。

決勝進出のかかる準決勝は、昨年の新人戦と同様松本工業との試合となった。中信の2位になるか3位になるかは、次の県大会の組み合わせに大きな違いとなって表れるため、2位を維持したいところだが、今年に入って松本工業には勝てない状態が続き、大きな不安を抱えての試合となった。

学校対抗準決勝（対松本工業）		
深 志	3 - 2	松 工
白 鳥	1 2 - 1 4	布 山
	6 - 1 1	
	1 1 - 1 3	
松 島	1 1 - 4	南 波
	1 1 - 7	
	1 1 - 9	
田 原	7 - 1 1	布 山
	1 1 - 4	
	1 2 - 1 0	
松 島	6 - 1 1	山 本
	5 - 1 1	
竹 内	9 - 1 1	山 本
	7 - 1 1	
	1 1 - 6	
	1 1 - 8	
	1 1 - 9	
田 原	9 - 1 1	古 畑
	1 1 - 4	
	1 1 - 8	
	7 - 1 1	
	1 1 - 7	

学校対抗決勝戦（対松商学園）		
深 志	0 - 3	松 商
田 原	1 2 - 1 0	大 西
	9 - 1 1	
	1 2 - 1 0	
	6 - 1 1	
	7 - 1 1	
松 島	5 - 1 1	沖 村
	4 - 1 1	
	1 7 - 1 5	
	8 - 1 1	
竹 内	2 - 1 1	百 瀬
	8 - 1 1	
	3 - 1 1	
白 鳥		沖 村

1 番をあっさり落とし、2 番は相手のカットを確実に打ち抜いてタイの星にもどす。ところが団体戦の山である次のダブルスを結局落としてしまい、残りを連取しなくてはならなくなる。4 番の試合も 2 セットを先に失い、全く後のない状態に追い込まれる。相手側には余裕のムードも漂い、これで試合も終了かとあきらめかけた時、ここから竹内の執念の追い込みが始まる。となりで行われていた 5 番の試合が先に決着がつき、4 番の台に両チームのすべてが注がれる。後のない状態に立たされながら、3・4 セットをしのぎ、ようやく両者 2 - 2 のセットカウントに迫っていく。このあとの緊迫したゲームをものにして、大逆転劇で中信 2 位を死守した。

決勝の相手は松商である。結果的には 0 - 3 ではあるが、田原が国体県予選準優勝の大西から 2 セットを奪うなど、予想以上に健闘した試合であった。

個人戦のシングルスでは、前回と同じく白鳥・松島・田原が県大会の出場権（ベスト 16）を獲得することができたが入賞することはできなかった。結局ダブルスも上位を松商が全て独占し、圧倒的な強さを示す結果となった。